

トラベル懇話会

「囲碁の魅力～碁は経済なり～」

石倉昇氏

囲碁棋士

囲碁が日本に伝わったのは5～6世紀頃とされ、その後、日本人に愛され文化として根付き発展してきました。囲碁の愛好家には歴史上の人物も多く、明治の元勳である大隈重信は「碁は経済なり」との言葉を残しています。実際に渋沢栄一をはじめ囲碁を好んだ経済人も数多く、囲碁と経済の相性の良さがうかがえます。今回は、日本興業銀行の行員を経てプロの囲碁棋士となり、囲碁と経済の両方の世界に通じる石倉九段に、囲碁の魅力や、囲碁と経済・経営との共通点などについてお話しいただきました。

囲碁と経済の共通点とは

囲碁は中国またはチベットが発祥とされ、日本には5、6世紀頃に伝わったとされます。正倉院の御物の中にも碁盤『木画紫檀碁局』があります。その後、平安時代には上流階級に愛され、紫式部や清少納言も囲碁をたしなんだようです。『源氏物語』には、女官が碁を打つ姿を光源氏が観ている様子が描かれています。『枕草子』には「囲碁では相手が自分の弱点に気付かぬよう、敢えて弱い部分をすぐに攻めず、別の部分から陣を奪っていく」といった上級テクニックに言及した部分もあります。

古代中国の言葉で「琴棋書画」（きんきしよが）という言葉があります。日本にも伝わり広まった言葉ですが、君子たる者が本業以外にたしなむべきものは、音楽、囲碁、書道、絵画の4つであるという意味です。貴族たちにとって囲碁は単なる遊びや勝



負事の域を超えた存在であったわけです。

その後、囲碁は江戸時代に日本で発展し広がっていきます。幕末期には大久保利通が藩主・島津久光に取り入れるため囲碁を覚えたとされますが、他にも西郷隆盛、伊藤博文、岩倉具視など明治の元勳たちの多くや、渋沢栄一、五代友厚といった経済人も囲碁を好みました。大隈重信もその一人

で、かなり強かったようです。その彼が「将棋は戦い、碁は経済なり」という言葉を残しました。将棋は相手の王様の首を獲る文字通りの戦争ですが、囲碁はいわば陣取りゲーム。相手にも陣を与えつつ最終的により多くの陣を獲得するための競い合いである点が経済、経営のありように通じるというわけです。

世界 4000 万人に広がる囲碁の魅力

将棋は基本的に日本独自なもの。海外にも将棋はありますがルールが異なります。またチェスは欧米のもので、一方で日本で発展した囲碁は世界 100 カ国に広まり、共通ルールで楽しむ世界の囲碁人口は 4000 万人以上。日本で発展し確立したゲームが世界中を魅了しているのです。かつてはトッププロの実力も囲碁人口も日本がナンバーワンでしたが、いまや中国の囲碁人口は 2500 万人、韓国も 900 万人以上。日本の 200 万人を大きく上回ります。プロの囲碁棋士の人数は日本が 480 人で、韓国の 390 人、中国の 370 人を上回り最多。しかし中韓のトッププロは誰もが知る超有名人ですが日本ではトッププロの名前を知らない一般の方々は少なくありません。

世界における囲碁人気の理由はいくつかあります。まず囲碁をやると地頭が良くなり受験にも役立つという点。特に韓国や台湾では受験ママたちの間で常識化しており、韓国では 90 年代にブームが起り、ソウルには子供たちが通う囲碁教室が多数あります。

男女差がないジェンダー平等の競技である点も人気です。たとえば日本のプロの

囲碁棋士に男女の別はなく、女性プロが男女混合トーナメントの決勝に勝ち上がって男性と戦うこともあります。しかし将棋はプロ棋士 170 人のうち女性はゼロ。女性プロには女流棋士という別のカテゴリーが用意されているのです。

私はカルチャーセンターで 40 年間にわたり囲碁教室を持っていますが、生徒の 3～4 割は女性です。勝ちと負けが鮮明な将棋と違い、陣取り合戦の囲碁は終局後も和気あいあいと対戦を振り返れるのも人気理由の一つだと感じています。

年齢に関係なく高齢者も強くいられるのも囲碁ならではの、囲碁の現役最高齢棋士は杉内寿子八段で 96 歳。単にプロというだけでなく最近も勝っています。7 月 13 日には 12 歳で最年少プロの柳原咲輝初段との囲碁史上最大の 83 歳差の対戦が予定されています（注：当日は杉内八段が体調不良で出場を見送り柳原初段が不戦勝）。

学校の授業に向いているのも囲碁の強みです。東大では 2005 年秋から単位の取れる授業として囲碁が取り上げられ、2022 年時点で北海道、京都、大阪、一橋、筑波、東工大などの国立大や早稲田、立教、青学などの私立大学、合計 37 校が導入しています。小中高でも 46 校が正課授業として囲碁を取り上げています。囲碁が授業に向いているのは、将棋ほど普及していないことも理由です。1 クラス 40 人として囲碁の経験者はゼロか、せいぜい 1 人。ゼロからのスタートで揃うから授業がしやすい面があります。また囲碁の高校選手権の強豪校は超進学校と重なります。集中力や記憶力など勉強に必要な能力が囲碁によって鍛えられる面があるように思います。

日本が育てた伝統文化

囲碁が発展したのは日本においてです。日本では平安時代から親しまれてきた囲碁ですが、戦国武将にも親しまれ、徳川家康が囲碁を広めました。関ヶ原の戦いの前には家康が囲碁大会を主催し、味方の囲い込みや人脈形成に役立てた史実もあります。1612年には囲碁が強い6人の碁打ちに給料を払った記録もあり、現代の貨幣価値に正確に換算するのは難しいのですが、だいたい年間五百数十万円に相当する金額だったようです。

いずれにせよ家康が発展の土台を築き江戸期に広く普及しました。きっかけとなったのが御城碁（おしろご）です。碁打ちが家元となり年に1回、将軍の面前で対戦するのですが、勝てば当然ながらその家元が栄えます。ですから各家元は必死で技術を磨くわけです。この御城碁は1626年から1861年まで200年以上続きそれが囲碁の飛躍的な発展の原動力になりました。

日本は80年代まで、囲碁人口もプロの実力も世界一でした。80年代の日本の囲碁人口は約600万人で、韓国ではプロの囲碁棋士はわずか数人でした。中国は文化大革命の影響で囲碁も壊滅状態。ところが90年代になり日本が“失われた30年間”に経済停滞し囲碁人口も減少するなか、中韓では囲碁人口が急増。経済力も囲碁の実力も飛躍的に成長しました。

囲碁を愛した人々

日本で発展し世界に広まった囲碁は、世

界中で人々を魅了しています。囲碁好きの世界的著名人も挙げればきりがありません。ビル・ゲイツ氏はハーバード大学入学後に囲碁を覚え、腕を磨くためにマサチューセッツ工科大学まで出稽古に行ったそうで、立教大学での講演の際にエピソードを披露しました。東洋文化に傾倒していたスティーブ・ジョブズ氏も囲碁好きで、来日した際に碁盤を買って帰ったそうです。

習近平主席も囲碁の愛好家として知られます。始めたきっかけは政治秘書時代に視野を広げるために勧められたことで、後に「囲碁を打つことで国を治める道理を学んだ」と述べています。中国や韓国の政治家には囲碁好きが多いため囲碁外交も盛んで、かつて韓国の朴槿恵大統領が訪中した際には囲碁の話題で盛り上がったと報じられています。

かつては日本にも囲碁好きな政治家が多数いましたが、最近では以前に比べだいぶ少なくなりました。2009年にオバマ大統領が訪中した際には当時の胡錦濤主席に碁盤と碁石を贈りました。つまり米国人も東洋を代表する文化のひとつとして囲碁を認識しているわけです。政治家を含む多くの日本人が、日本で発展した囲碁に親しむようになってくれればと思います。

<Profile>

いしくら・のぼる ●1954年神奈川県生まれ。麻布高校から東京大学を経て1978年に日本興業銀行入行。1980年プロ棋士初段。1982年棋道賞新人賞。1991年八段、2000年九段。アマチュア指導の第一人者でもある。2008年東京大学客員教授就任。2015年日本囲碁ジャーナリストクラブ賞受賞。日本棋院東京本院所属

